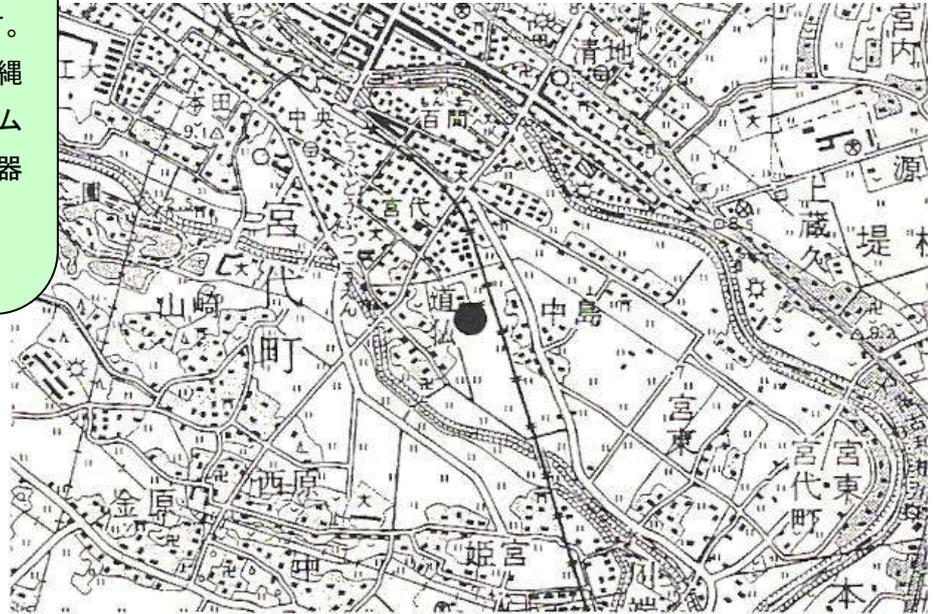


道仏北遺跡

～現地説明会資料～

道仏北遺跡は、道仏土地区画整理事業に伴い、平成18年12月末から調査を行っています。面積約3,400㎡を対象とした調査では、縄文時代早期後半、前期中頃、古墳時代中頃のムラの跡が見つかっています。当時使われた土器や石器なども見つかっています。



道仏北遺跡位置図 (1/50,000)

氷河期が終わり、縄文時代に入るとしだいに気温が上昇し、前期約6千年前頃にピークを迎えます。こうした気温の上昇に伴って、海面が上昇し、海が今の中川低地一帯に入りこみ、栃木県藤岡付近まで達したといわれています。道仏地区の周辺の低地も海であったようです。



1-21 海岸線の推定図



ムラの風景

縄文時代早期（約7,000年前）

5軒の住居跡、5基の炉穴などが発掘されています。



↑ 11号住居跡（中に炉穴があります）



2号住居跡内 早期の土坑と出土土器



縄文時代前期（約6,000年前）

住居跡11軒が発掘されています。花積下層式期1軒、黒浜式期のものが5軒、諸磯式期のもの5軒が発掘されました。いずれも四角形をした住居です。柱や火を焚いた炉の跡が確認されています。また、住居の中からは土器や石器が出土しています。



3号住居跡



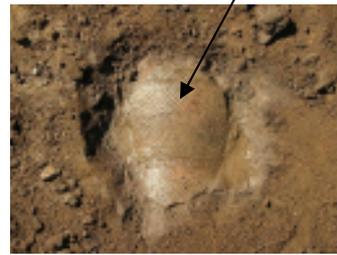
3号住居跡遺物の出土状況

重なり合う住居跡

発掘前の遺構



跡



6. 7. 12号住居跡⇒



と
な
り
に
も
家
の
跡
が
…

住居跡の調査風景



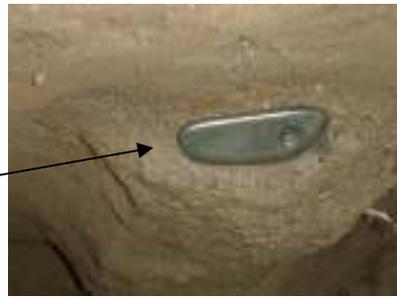
9号住居跡



2号住居跡



跡



跡遺

古墳時代 約1,500年前)

住居跡2軒が発掘されています。住居の中からは土師器（はじき）と呼ばれる土器がたくさん出土し、まが玉も1点出土しました。



1号住居跡



4号住居跡



道仏北遺跡見学会資料